

## 祝 第36回 ミニトン全日本選手権大会 in 東京湾

入江 学

本大会が無事に開催される運びとなりましたことを心からお慶び申し上げます。斎藤さんのご尽力で第27回大会が初めて当地で開催されて以来、3回目の東京湾での大会となりました。1979年に第1回大会が東海で行われ、今年2016年に第36回大会を迎えることとなります。この間中止せざるを得ない大会も2回ありましたが37年間に渡り脈々と続いてきた歴史の重みを今更ながら痛感致しております。本大会も発足当時はヤマハと関東自動車のいわばファクトリーチームの戦いで、運営も企業主体で行われ、出場艇もY21、LEP21の競り合いの様相でした。第5回大会辺りから運営は企業の手を離れ、第6回大会からは完全に協会の主体で運営されるようになり、出場艇もTAK23、KAN23等の新型のIOR艇の戦いが始まります。またミニトン協会はミニトンクラスの小型艇の参加するレースも無い、当時の大型艇中心のNORCの本部に反発しながら異端児として独自の姿勢を貫き通します。一方この頃から関東では木村太郎さんを中心とするSSBM（相模湾スモールヨットミーティング）、それに呼応して琵琶湖ではBSYC（琵琶湖スモールヨットクラブ）が結成され、小さなヨットで大きな満足、自分達の遊びの場は自分達の手で、を標榜しつつミニトン協会の底辺の拡大を果たすこととなります。このような地道な活動の結果、第10回大会では、出艇数36艇、パンフレットに集めた協賛各社の掲載広告の数は29社に及びました。その勢いは衰えることなく、多種多様なIORの新艇も数多く進水し、13回大会では43艇が集まりました。また恒例としてミニトン全日本は10月の体育の日に行われていましたが、他の大型艇のクラスのレースが同日同じ海面でそこ退け的に行われ、両レース艇が交差する場面もありましたが競合を譲らず、NORC本部などから非難を受けながらも独自路線をとるなど本部との軋轢もあったように思います。

今年、2月に行われた外洋合同委員会で、「ミニトン協会は会則を持ち、各地に支部があり、IRCハンディキャップで模範的なレースを定期的に行っている」と褒められた、との斎藤副会長の報告文を見ました。長年引っ掛かっていたものが取れたように感じ、大変嬉しく思いました。長年の努力と確たる実績が認められ、ミニトン協会が名実共に認証されたように思います。この楽しく素晴らしいミニトンの輪がこれからもいつまでも続いていくものと確信し、今大会の実行委員長を務められる中村支部長始め新しい力に期待と敬意を表したいと思えます。今大会が無事に楽しく行われることをお祈り致します。